



四国西予ジオパーク
SHIKOKU SEIYO GEOPARK

平成 30 年度

施政方針及び予算提案説明



平成 30 年 2 月 27 日

西予市長 管 家 一 夫

平成30年度施政方針及び予算提案説明

平成30年度当初予算の全体像(ポイント)

“挑戦・改革・前進”

『西予市の次なるまちづくりに踏み出す予算』

1. 市政運営の基本姿勢	1
○ はじめに	1
① 人口減少のスローダウン	3
② 安全・安心の実感	3
③ 四国西予ジオパークの推進	5
④ 産業振興・雇用創出	5
⑤ 地域力の活性化	6
⑥ 魅力あふれるまちづくり	7
⑦ 働き方改革・合理化	8
2. 平成30年度一般会計当初予算(概説)	10
○ 予算の概要	10
3. おわりに	11

平成 30 年度西予市長施政方針及び西予市予算提案説明

平成 30 年度における市政運営の所信並びに一般会計予算の概要を申し上げます。

1. 市政運営の基本姿勢

○はじめに

私が、平成 28 年 5 月に西予市長に就任して以来、早くも任期の折り返しの時期を迎えようとしております。

この、およそ 2 年間、多く市民の皆様との出会いの中で、様々なご意見やご提言をいただき、また、市政運営上の経験を積み重ねる中で、改めまして本市が抱える課題を認識し、市政運営の難しさと重要性を痛感するとともに、その責任を重く受け止めているところであります。

合併して 15 年目を迎えようとしておりますが、旧 5 町のそれぞれの地域性を活かしつつ、着実に西予市としての一体感は醸成されてまいりました。

その過程におきましては、数々の試練ともいうべき難題もあったかと思えます。しかし、市民の皆様、議会の皆様の理解と協力をいただきながら、共に乗り越えてまいりました。

今なお、解消されていない問題や新たな課題も生じてきます。それらに対しましても、市民、議会、行政の三者相互の信頼関係と協力体制により、必ず改善し、解決していけるものと信じております。

さて、西予市のこれから取り組むべきまちづくりであります。これまでに築かれてきた基礎基盤の上に、様々な分野でまちづくりの種がまかれてまいりました。

私は、それらが着実に花を咲かせるよう、引き続き努力していくとともに、本市の現状と将来を見越し、「次なるまちづくり」へ踏み出す時期に来たと考えております。

私の標榜する『西予市で生活を望む人が増え、その望みが叶えられるまちづくり』、『安心が体感できるまちづくり』を実現する

ために、これまでに準備や体制を整えてきた各種施策の具体的な展開、そして、「次なるまちづくり」への新しい施策の検討を進めてまいります。

現在、国も地方も非常に厳しい財政状況にあります。当市も含め、全国の自治体が、生き残りをかけて新たな施策や独自性を持った事業に全力を挙げて取り組んでおります。

当然、新たな取り組みは、前例に乏しく、様々な困難が予想されます。

しかし、そうした困難なことがあるからと、始める前から限界や壁を作って、あきらめてしまえば、それで終わりです。そうした難問に挑戦し、その困難性を乗り越えなければ、現状を打開し、大きな成果を得ることはできません。

また、そのためには、従来の考え方や手法の見直し、或いは、推進体制を大きく転換し、創意と工夫を尽くすことが大事です。これには、行政だけではなく、市民の皆様、議会の皆様のご理解とご協力が不可欠となります。

そうした西予市一丸となった取り組みを推し進め、未来の西予市の安定した維持、発展に向けて、着実、確実に前進してまいります。

平成30年度予算におきましては、“挑戦・改革・前進”を前面に掲げ、『西予市の次なるまちづくりに踏み出す予算』として、7つの分野に施策を大別し、それぞれの事業を展開してまいります。

併せて、『第2次西予市総合計画』及び『西予市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を実行してまいります。

それでは、7つの施策分野ごとに、今後、鋭意取り組む主要な事業を中心に述べさせていただきます。

①人口減少のスローダウン

まず、市の施策として最重要課題となる人口減少対策でございます。

いかに人口減少を緩やかにさせるか、スローダウンさせるかが、自治体のポテンシャルを保つカギとなります。

そのために、特に子育て支援対策として、子育て環境の整備、制度を充実させます。

その主なものといたしまして、小中学生の通院医療費自己負担分に対する助成制度の拡充、今年度整備いたしました、認定こども園「しろかわ保育所」及び市民病院の病児・事業所内保育所「スマイル保育園」の運営、引き続き行います子育て応援券の支給、子育て支援センターでは妊娠期から子育て世代への支援の充実を図る「きずな配信サービス」などを実施します。

また、特定不妊治療助成事業につきましては、昨年度に引き続き、県補助事業に市単独事業として上乘せを行います。

そのほか、移住促進では移住コーディネーターの活用による移住相談、空き家改修や移住体験ツアーの実施のほか、西予市版田舎で働き隊の導入等を行います。

また、市内に住所を有する学生が、卒業と同時に市内の事業所等に就業する場合に、奨励金を交付する、ふるさと就業創出奨励事業を実施し、地元就業への意識付け、人材や労働力の流出を抑えたいと考えております。

②安全・安心の実感

先般の長期にわたる断水の原因となった異常寒波、局地的な集中豪雨などの近年の異常気象による自然災害、南海トラフ巨大地震発生時の対策など、危機管理対策におきましては、まず、市民の皆さんへの正確で迅速な情報提供が重要となります。現在までに順次進めております、防災行政無線デジタル整備事業につきましては、平成30年度は城川地区の整備を進めることといたしております。

また、伊方原発3号機の再稼働に伴い、愛媛県に対し平成30年度から5年間、原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交

付金が最大で 25 億円交付され、当市では 5 年間で 2 億 1 千万円が割り当てられることになりました。この交付金を受けまして、県が策定しました「地域振興計画」に基づき、有事の際の避難路を確保するため、UPZ 圏内の明浜、三瓶、宇和地区の一部の道路橋の点検・補修事業を実施いたします。

三瓶町安土地区及び日吉崎地区におきましては、低地のため降雨による雨水排水が集中しやすく、大雨や台風時に満潮や高潮が重なった際には、度々浸水被害を受けております。その対策である雨水公共下水道事業につきまして、平成 34 年度の完了を目指し、本格的に着手します。これにより、浸水被害を解消・軽減し、生活環境の整備と災害に強く、快適で暮らしやすい街づくりの推進を図ります。

また、野村町惣川診療所、城川町遊子川出張診療所の廃止に伴い、無医地区となる地域住民への医療サービスを維持、提供するため、野村病院において巡回診療車の運用を開始します。これによりまして、地域医療の確保、充実を図り、地域住民の健康的で安心した生活を維持するものであります。巡回診療車の運用範囲につきましては、導入後の実績や地域住民等のご意見をいただきながら、さらに充実させることを検討してまいります。

地域医療の確保とともに、過疎化、高齢化が進む地域における、救急空白時間の解消、救急体制の充実を図るため、明浜、城川地区におきまして、長年の懸案でありました救急 24 時間体制を配備いたします。

当市からの提案による政令改正で創設されました准救急隊員制度を活用し、消防職員だけでなく、一般職職員の兼務及び任期付職員による救急搬送、人命救助を行います。

巡回診療車や救急 24 時間体制の導入により、地域の皆様の安全・安心がさらに確保されることを期待いたしております。

そのほか、市内の公共交通等の空白地域において、通院や買い物等の移動手段を確保する生活交通バスやデマンドタクシー等の運行、また、増加傾向にあります空き家の利活用を促進するとともに、空き家をもたらす諸問題に対しまして、市役所内で横断的に対策を検討し、対応してまいります。

③四国西予ジオパークの推進

四国西予ジオパークは、昨年12月22日に日本ジオパーク委員会から再認定をいただきました。

4年前の認定以来、多くの方々がジオパークの活動に関わっていただいたおかげであり、深く感謝と敬意を表する次第であります。

再認定を受けました四国西予ジオパークは、これから、審査員からの指摘を踏まえつつ、さらに本格的な展開に向けて動き始めます。

その拠点施設となる「四国西予ジオミュージアム」(仮称)の建設も平成32年度オープンに向けて、年度内に工事着工の予定であります。

本年度策定いたします、第2次四国西予ジオパーク推進計画に基づき、未だ西予の大地に眠るジオの宝を探し、磨き、発信する取り組みを市民の皆様との協働により、一層加速化させます。

そして、「ジオの恵み」などのジオブランドの創出や映像を活用したイメージ戦略の展開により、観光や産業への経済波及効果の拡大とともに、郷土愛や地域に対する誇りの醸成に努めてまいります。

④産業振興・雇用創出

農林水産業分野におきましては、人口減少とともに、従事者数が減少しており、高齢化や後継者不足による農畜産物の生産量・生産額の減少、農地の荒廃等が危惧される状況となっております。

担い手確保や生産コスト縮減、農業基盤の整備、鳥獣害対策、集落営農や法人組織等への支援などを継続的に実施するとともに、農地の基盤整備と担い手への農地集約を一体的に進める中間管理機構関連農地整備事業などに積極的に取り組みます。

また、西予市の75%を占める森林の環境整備及び林業振興を図るため、林業再生、素材の増産に向け、林業事業者への支援や、木材出荷に係る生産者への支援を継続して実施します。併せまして、森林整備の加速化を図るための路網整備を推進します。

また、平成 30 年 4 月 1 日に予定しております『ウッドスタート宣言』により、幅広い世代に森林や環境に目を向けてもらい、木を使うことや環境保全につながる木育推進事業を実施します。具体的には、新生児への誕生祝いとして、木製おもちゃの贈呈、木育推進教室を開催します。

水産業施設の整備では、物揚場の老朽化が著しい有太刀漁港の整備を行い、物揚場上部工の補修やエプロンの舗装により、利用者や生産者の労働環境の改善、施設機能の向上を図ります。

農林水産物の加工開発など、地場産業の振興につきましては、ふるさと納税への効果も期待するところであり、ジオブランドの推進による多様な返礼品の魅力向上も含めて、取り組みを強化してまいります。

中小企業の振興と雇用の創出につきましては、引き続き、地場産業の事業承継、新規創業支援、企業誘致に積極的に取り組んでまいります。

企業誘致に関しまして、先般、2 月 15 日に株式会社ちぬやホールディングス四国工場の起工式が、建設地である宇和町皆田地区において行われました。

ちぬやホールディングスをはじめ、この度の工場立地に関係いただきました皆様方に厚く感謝申し上げます。

この工場建設によりまして、新たに 150 名程度の新規雇用が生まれるということであり、地域経済、地域活性化への大きな効果が期待されるところであります。

市といたしましても、新工場の円滑な稼働、操業に向けて、移住交流施策ともリンクさせつつ、可能な限り支援をしてまいりたいと考えております。

今回の「ちぬや」の誘致の成功を契機に、今後も一つでも多くの企業を西予市に誘致できるよう努力してまいりたいと思っております。

⑤地域力の活性化

全国でも注目されております、地域発「せいよ地域づくり」事業につきましては、手上げ型交付金制度の導入から 3 年目を迎え、

「自分たちの地域を自分たちの手で」の基本理念が市内各所で着実に定着、拡大しつつあり、それぞれの「地域力」は確実に向上していると感じております。

今後も、地域が考え、実践する取り組みを支援するとともに、その成果を広く情報発信することで、さらに自主自立の地域づくりを推進してまいります。

また、住民の主体的な地域づくり活動と行政との関係性、公民館の従来からの機能と地域づくり拠点施設としての機能、いわゆる自治センター化への検討など、小規模多機能自治活動の在り方につきましては、市民や有識者による検討委員会を設置し、具体的な検討に入りたいと考えております。

小規模多機能自治活動につきましては、地域住民の皆様との相互理解が不可欠であり、市民の皆様の意見をいただきながら、今後の方針をまとめてまいりたいと思います。

⑥魅力あふれるまちづくり

このほか、西予市ならではの魅力あるまちづくり進めてまいります。

まず、ふるさと納税の取り組みですが、平成 29 年度は 1 億円を目標に、返礼品の拡充やポータルサイトの追加開設などに取り組み、以前に比べますと格段の成果が上がりましたが、残念ながら目標達成には至りませんでした。

平成 30 年度は、返礼品の追加・見直し、特産品プロモーション動画の制作や特産品フェアへの参加などを通して、目標額を 1 億 2 千万円に引き上げ、取り組みを強化したいと考えており、市の財源確保はもとより、特産品 P R と市内業者の販路拡大、生産性の向上に努めます。

次に、J R 卯之町駅前を中心に官民連携の P F I 方式で実施しております、卯之町「はちのじ」まちづくり推進事業でございますが、来年度は実施設計に入り、より具体的なエリアのイメージが出来上がります。駅前エリア整備事業の進捗と併せて、未来のまちづくりに繋がる賑わいと交流空間の創出を進めます。

教育関係では確かな学力の向上のため、小中学校の学力向上プ

プログラム、地域子ども学び場事業を引き続き実施します。

また、旧宇和病院の跡地利用による図書館機能を中心とした社会教育複合施設につきましては、CLT工法を採用し、幅広い世代の市民が集い、学び、本市の魅力創出などの様々な活動を実践する拠点施設として、平成31年4月のオープンに向けて整備を進めるとともに、周辺施設も含めたアクセス道の整備を行います。

明浜町狩浜地区の段畑と農漁村景観の国の重要文化的景観の選定に向けては、平成27年度から取り組みを始め、文化庁や専門家、有識者の指導を仰ぎながら、また、地元の皆さんの協力をいただきながら、調査を実施し、報告書をまとめてまいりました。今年度は、いよいよ選定の申し出を行うこととしており、是非とも選定をいただき、景観の保全・保護に努めながら、地域の魅力づくりや地域の活性化につなげてまいりたいと思います。

また、古代ロマンの里推進事業では、昨年10月に国史跡に指定された「八幡浜街道笠置峠越」のガイドブックを作成し、街道の歴史や魅力を発信するほか、埋蔵文化財の活用事業を展開してまいります。

学校給食につきましては、せいよ西給食センターに引き続いて野村学校給食センターの整備を進めているところですが、地産地消の推進及び子どもたちの食育と地域の農業に対する理解を促進するため、エコえひめ農作物に認証されたコシヒカリを学校給食に納入し、生産者との交流や農作業の体験学習を通じて、食の大切さや感謝の気持ち、郷土愛の育成に努めます。

⑦働き方改革・合理化

また、働き方改革の推進につきましては、平成28年12月から具体的に取り組んできましたオフィス改革の成果が徐々に現れてまいりました。

その成果の一つとして、今般、総務省の「ICT地域活性化大賞」で全国102団体の中から12団体に選ばれ、また、行政効率化賞という特別賞を受賞いたしました。

本市のICTを活用した働き方改革が高く評価されたものと、大変うれしく、また、誇らしく感じているところであります。

このオフィス改革につきましては、本庁4階フロアでのみ実証実験的に行ってきたところですが、来年度はさらに2階・3階フロアへと拡大いたします。4階フロアほど、見た目が劇的に変わることはありませんが、4階フロアでの成果を活かしながら、電算システムや庁内ネットワークなどのICT環境の整備、机の配置の工夫などにより、横の連携を強化し、イクボス宣言とともに業務の効率化と働き方に対する職員意識の向上を図ります。

また、職員の意識改革を促し、意欲ある職員の積極的な登用による組織の活性化を図るため、主任級の職員による係長への昇任試験制度を導入します。

職場環境及び職員意識の改革とともに、産業建設部を産業部と建設部に再編するなど、組織機構の見直しを行います。これによりまして、担当業務の集約と、専門性及び行政機能の向上を図ります。

支所建設に関しましては、明浜支所では、平成30年度から31年度にかけて本体工事に着手いたします。野村支所では、実施設計を進めるとともに、建設予定地の野村公会堂及び旧図書館の解体を行います。平成32年度中の完成を目標といたしております。

また、城川支所におきましては、ジオミュージアムの建設に併せまして、周辺整備に取り掛かり、平成30年度はプールの解体と駐車場の整備を行います。

当市は他市町と比べ、数多くの公共施設を保有し、管理運営を行っており、その維持管理経費も財政圧迫の要因の一つとなっております。

公共施設につきましては、設立目的と現在の運用状況、今後の施設・設備の修繕等に係る投資予測などを踏まえ、統廃合を含めた施設の在り方について検討すべき時期に来ていると考えております。

外部有識者の客観的な意見、また、議会及び地域住民の皆様の意見や要望も踏まえ、市民生活や地域経済への影響も考慮しつつ、合理化に向けて具体的な見直しを進めてまいります。

2. 平成 30 年度一般会計当初予算(概説)

○予算の概要

所信に引き続き、平成 30 年度一般会計予算について、概説申し上げます。

今回提案いたします予算は、これまでに着実に築き上げてきたまちづくりの土台の上で、新たな挑戦に自ら限界や壁を作ることなく、市民とともに常に創意と工夫をもって積極的に取り組み、『西予市の次なるまちづくりに踏み出す予算』、並びに、市の主要な一般財源である普通交付税の縮減が続く、厳しさが増す財政状況の中で、基金や市債を有効に活用し健全財政を常に意識しつつ、『第 2 次西予市総合計画』及び『西予市まち・ひと・しごと創生総合戦略』における政策目標の早期実現に向けて計画的に事業を進め、現下の重要課題に対応するための予算を計上するものでございます。

この結果、平成 30 年度一般会計当初予算の総額は、280 億 8,600 万円、前年度比 3.6%、9 億 6,900 万円の増額となりました。

この増額分につきましては、主に明浜支所建設事業、ジオパーク拠点施設整備関連事業、社会教育複合施設整備事業及び防災行政無線デジタル整備事業などの大型建設事業を実施することによるものであります。

3. おわりに

今回提案いたします当初予算は、冒頭申し上げましたように、私の任期折り返しの時期を迎え、合併以来、西予市の脈々と積み重ねてきた、まちづくりの成果が実りあるものとなるよう引き続き努力するとともに、将来の西予市の姿を見据え、これに備える次のまちづくりに踏み出すものとして、編成したものであります。

まずは、人口減少のスピードを緩めることを最優先の重点課題としつつ、市民の多様なニーズや新しい時代が要請する、新たなまちづくりにスピード感を持つて的確、適切に対応し、市民の皆様が納得できる市政運営を心掛けながら、次の西予市づくりに取り組んでまいります。

議員の皆様、市民の皆様におかれましては、今後とも、市政運営に対する格段のご理解とご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます、新年度に臨む私の所信とさせていただきます。